

同國○奥 若松といふ所は、賑はしきよき所なり、夫より東の方にゆく事六里ばかりと覺ゆ、笹山といふ所にいたり、右の方へ別れ道を、三十町ばかりにして猪苗代の湖水に到、いかにも奥州は大國なり、此湖水さながら近江の湖にことならず、近郷隣村ふねにて世用を便す、かるがゆへに遠浦の歸帆も見ゆ、東路の遠き奥なれば、世の人かゝる風景こゝに在ことをえらす、惜ひかな知る人すくなし。

〔東遊雜記一〕五月二十四日、高田村御發足五 大寺村三 猪苗代止宿、二本松への街道は、盤大山

と湖の間を往來とす、略 中湖の廣サ北南百丁、東西九十丁、若松領二本松領の入組なり、湖にて取

魚、鮒大なるは一尺餘 赤はらと云魚是も一尺餘 鮠、此外の魚は更にはし、湖より流出る川を日橋川と稱

し、急流にて瀧のごとし、五里餘川下山崎といふ地にて、若松より流出る大川と一流となる也、會津郡と那麻郡の界は、此流を以て堺とす、湖は那麻郡の内なり、

〔西北紀行下〕當國○若狹國 三方の郡に湖三あり、御形の湖、小濱より六里東北に在り、長さ二里深し、敦

賀よりも六里あり、鯉鮒多し、其次に勾子の湖、長さ三十丁、横十四五丁、御形の對ひの山を隔つ、其

間一里許りあり、其次にひるがの湖、是は勾子の湖と並べり、廣さは勾子の湖と同じ、其水甚だ深

し、ひるがの湖には潮滿れば海水入る、故に海魚も河魚もあり、

越中國
布勢湖

若狹國
御形湖
ひるが湖
勾子湖

〔書言字考節用集乾一〕布勢フセ海ウミ 又云多湖海

〔閑田耕筆一〕越中國布勢の湖は家持卿のうた萬葉集に見ゆるに付て、其邊の地理を國人にとふ

に、先かの卿を祭れる社湖邊にありて、御蔭明神と稱す、多胡のうらは、今湖をさること半里餘に

して、陸地の一邑となれり、此間の湖水は埋れて田となりし成べし、たゞ名におふ藤は大なる古

樹今も繁茂せり、澀谷崎は二上山の北の尾のうみに臨む所をいふ、射水河は水源飛彈山中より

出て、當國礪波郡井波といふ所にいたり、細き谷口より流出るが、水勢甚急也、さて其水二流に別